

磁石の豆知識

ホームガス課
森本 英幸

① 磁石の起源

紀元前数百年ごろ、小アジア（トルコの一部）のマグネシア地方で、鉄を吸い付ける石を発見しました。この鉱物は、天然に磁化された磁鉄鉱：マグネタイトで、人類が最初に出会った硬質磁性体です。後になってロードストーン（lodestone）と名付けられました。マグネットの語源は古代ギリシャのマケドニアあるいは小アジアにあったマグネシア地方で磁鉄鉱が産出されたことから、永久磁石の「マグネット」は、マグネシア地方のマグネに由来したものといわれている説と、マグネスという人物が磁鉄鉱を発見したという二つの説があります。

② 磁石の作り方

電気が流れているところには磁力が発生する。この原理を生かすと磁石を作ることができる。磁力は、導線をばねの形に巻いたコイルを使用すると強くなるので、ばねの形に巻いたコイルに電気を流すと磁石ができるのだ。これを「電磁石（でんじしゃく）」という。電磁石は、電気を流している間だけ磁石になるのが特徴だ。電磁石は、コイルを巻く回数や導線の太さ、芯に使用する鉄などの太さによって磁力の強さが異なる。自宅のできる磁石の作り方はストローにエナメル線を丁寧に巻く。

- ① ストローの片方の端から規則正しく巻くことを心がけよう。
- ② ストローに鉄くぎを入れる。
- ③ ストローの両端のエナメル線を電池に繋ぎ、テープなどで止めると完成。

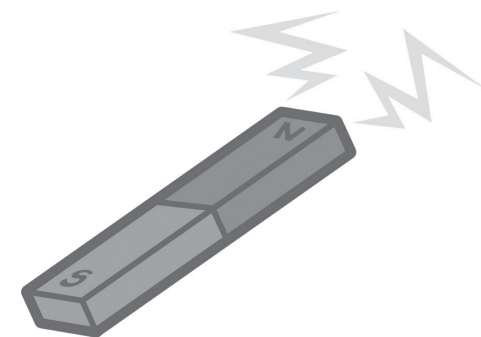
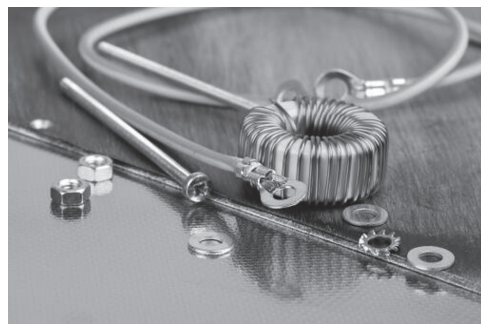
電磁石は、ストローを使用せずにエナメル線をくぎやボルトに直接巻いてもできる。磁石ができたかどうかを確認するためには、クリップを近づけてみるとよい。クリップが電磁石にくっいたら成功です。

③ 磁石の豆知識

日本のお札は磁石にくっつく。実はお札には磁性体が含まれた磁気インクというものを使用されており磁力の強いネオジム磁石を印刷の濃い部分に近づけると、くっついてきます。機械などでお札が本物かどうか確認できるようにするためだそうです。

「未使用の使い捨てカイロ」が磁石につきます。使い捨てカイロとは、鉄が酸素と化合して酸化鉄になる時の熱を利用しています。ですから、使用後の使い捨てカイロは磁石につきません。

クレヨンも色によって鉄が含まれているので、磁石につきます。「ぺんてるくれよん」の茶色とこげ茶色、「サクラクーピーペンシル」の茶色などがそうです。ただし、これも量はわずかなので、転がしておいて磁石を近づけていくと、コロっとくっつくという程度です。



参考：
<https://www.olive-hitomawashi.com/lifestyle/2020/12/post-487.html>
http://frank-ken.air-nifty.com/frankkens_tips/2011/10/post-30f9.html



前職では直接お客様に関わる仕事がなかったのですが配送の仕事では感謝の言葉をもらうことや気遣ってもらうことがあり非常に励みになります。未経験でわからないことばかりですが早く一人前になれるように一生懸命頑張りますのでどうぞよろしくお願ひします。

田中 拳四郎

新入社員紹介

はじめまして。6月1日よりホームガス課 配送グループに新入社員として配属になった田中 拳四郎（たなか けんしろう）です。

趣味は子供と出かけることで最近公園で遊んだり川遊び等をしていきます。名張以外の場所は詳しく知らないのですがおすすめの場所がありましたら教えていただけると嬉しいです。人の話を聞くのが好きなので配送でお伺いした際は気軽に話しかけて下さい。

だと思ひます。選手の皆様、そして関係者、サポート企業と直前まで準備をしていた事でしょう。県内でも選手等

の宿泊施設等も準備をされていたはずですが、そう考えますと本当に心が痛みますね。

次回、三重県での開催を心待ちにしています。選手の方々には本当に無念と思ひますが来年の栃木大会を

目指し心より応援しております。水之浦 英樹

大型商業リゾート施設 VISION [ヴィソン]

リビングサービス課 中川 拓哉

今年は、東京オリンピックがあり多くの選手に感動と元気をもらった方も多いのではないかと思います。私もその一人です。あまりオリンピックを見たことがなかったのですが、今回は日本での開催ということで時間があるときはオリンピックばかり見ていました。新たに競技に加わったスケートボードやスポーツクライミングなど新鮮で、ルールが分からなかったのですが、スピード感や迫力があり楽しめました！



話は変わりますが、今年つながりで三重県多気町に「VISION(ヴィソン)」という日本最大級の商業リゾート施設がオープンしたのですが、みなさんご存じでしょうか？

コロナの影響でなかなか外出はできないので、行かれた方は少ないのかと思いますが、三重県にもこんなものができたのかと知っていただけたらと思います。

私も名前だけ聞いたことがあっただけなので今回は「VISION(ヴィソン)」について簡単に紹介させていただきます。

「VISION(ヴィソン)」は「三重故郷創生プロジェクト」（アクアイグニス、イオンタウン、ファーストブラザーズ、ロート製菓による合同会社）を中心に、三重県多気町・地元大学とともに産学官連携で事業に取り組む地方創生プロジェクトによって作られた施設になります。

施設の大きさはなんと東京ドーム24個分もの広さがあります。広大な施設内には約9エリア約70店舗ものお店があり、遊びや・癒し・食まで一つの施設で楽しめます。1日ですべての店舗を回るのは難しいかもしれないですね！

個人的に興味を持ったのは、和食エリアの日本の料理には欠かせないものである「味噌・醤油・みりん・だし」などの製造工程を見学し体験もできるお店もあるみたいです。

他にも新鮮な海の幸や野菜やスイーツなどのお店もたくさんあります。

食べ物以外にもファミリーで楽しめ「木育」をテーマとした子供たちが木と触れ合い自然の中で木こり体験や、生物の多様性も体験できるエリアもあります。

「VISION(ヴィソン)」はオシャレで落ち着いた雰囲気なので人気のスポットになるのではないかと思います。県内ですが、コロナが落ち着いた時に一度行ってみようと思います。

参考：
https://www.kankomie.or.jp/report/detail_847.html
https://www.kankomie.or.jp/report/detail_902.html
<https://www.axismag.jp/posts/2021/03/342212.html>
<https://vision.jp/about/>